

第 2 回の演習問題

1. 講義中の定理 2.1 の証明を次のようにして与えよ.

(1) 行列 A およびベクトル $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2$ の成分を具体的に

$$A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}, \quad \mathbf{x}_1 = \begin{pmatrix} x_1 \\ y_1 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{x}_2 = \begin{pmatrix} x_2 \\ y_2 \end{pmatrix}$$

とにおいて, $T_A(\mathbf{x}_1 + \mathbf{x}_2)$ と $T_A(\mathbf{x}_1) + T_A(\mathbf{x}_2)$ をそれぞれ計算することにより, $T_A(\mathbf{x}_1 + \mathbf{x}_2) = T_A(\mathbf{x}_1) + T_A(\mathbf{x}_2)$ を示せ.

(2) 同じようにして, $T_A(c\mathbf{x}) = cT_A(\mathbf{x})$ を示せ.

2. 次の行列の積を計算せよ.

$$(1) \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 0 & 2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 2 & 4 \\ -1 & 1 \end{pmatrix} \quad (2) \begin{pmatrix} 5 & 4 \\ 1 & 6 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 0 & -1 \\ 2 & 0 \end{pmatrix}$$

3. xy 平面において, 原点を中心として, x 軸を角 θ だけ回転した直線を l_θ とする. 直線 l_θ に関する折り返し (平面上の点を l_θ に関して線対称な位置に写す操作) を T_θ とする. 平面上の点をベクトルと同一視することにより T_θ を \mathbb{R}^2 から \mathbb{R}^2 への写像とみなすと, これは \mathbb{R}^2 から \mathbb{R}^2 への線形写像となる. 線形写像 T_θ を表す 2 次正方行列 A を求めよ.

解答例

1.

(1) $T_A(\mathbf{x}_1 + \mathbf{x}_2)$ と $T_A(\mathbf{x}_1) + T_A(\mathbf{x}_2)$ はそれぞれ

$$\begin{aligned} T_A(\mathbf{x}_1 + \mathbf{x}_2) &= \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 + x_2 \\ y_1 + y_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a(x_1 + x_2) + b(y_1 + y_2) \\ c(x_1 + x_2) + d(y_1 + y_2) \end{pmatrix}, \\ T_A(\mathbf{x}_1) + T_A(\mathbf{x}_2) &= \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ y_1 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_2 \\ y_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} ax_1 + by_1 \\ cx_1 + dy_1 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} ax_2 + by_2 \\ cx_2 + dy_2 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} a(x_1 + x_2) + b(y_1 + y_2) \\ c(x_1 + x_2) + d(y_1 + y_2) \end{pmatrix} \end{aligned}$$

となるから、 $T_A(\mathbf{x}_1 + \mathbf{x}_2) = T_A(\mathbf{x}_1) + T_A(\mathbf{x}_2)$ が成り立つ。

(2) 省略.

2.

$$(1) \begin{pmatrix} -1 & 7 \\ -2 & 2 \end{pmatrix} \quad (2) \begin{pmatrix} 8 & -5 \\ 12 & -1 \end{pmatrix}$$

3. 定理 2.2 の証明によれば、 $\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ および $\begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$ が線形写像 T_θ によってどのようなベクトルに写るか求めて、結果として得られたベクトルを並べたものが、線形写像 T_θ を表す行列 A である。図形的考察により

$$T_\theta \left(\begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} \right) = \begin{pmatrix} \cos 2\theta \\ \sin 2\theta \end{pmatrix}, \quad T_\theta \left(\begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} \right) = \begin{pmatrix} \sin 2\theta \\ -\cos 2\theta \end{pmatrix}$$

だから

$$A = \begin{pmatrix} \cos 2\theta & \sin 2\theta \\ \sin 2\theta & -\cos 2\theta \end{pmatrix}$$

となる。

あるいは次のように考えることもできる。まず x 軸に関する折り返しを表す行列を考えると、それは

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix}$$

である。「直線 l_θ に関する折り返し」という操作は「角 $-\theta$ 回転」「 x 軸に関する折り返し」「角 θ 回転」の 3 つの操作をこの順に施したものに一致するので、行列 A は

$$\begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \cos(-\theta) & -\sin(-\theta) \\ \sin(-\theta) & \cos(-\theta) \end{pmatrix}$$

という行列の積に一致する（操作を施す順番と行列の登場する順番が逆転することに注意せよ）。これを計算して

$$A = \begin{pmatrix} \cos^2 \theta - \sin^2 \theta & 2 \sin \theta \cos \theta \\ 2 \sin \theta \cos \theta & -(\cos^2 \theta - \sin^2 \theta) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cos 2\theta & \sin 2\theta \\ \sin 2\theta & -\cos 2\theta \end{pmatrix}$$

を得る。